

## 令和四年度 入学式 式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。岐阜保健大学に入学される看護学部・リハビリテーション学部の皆さん、大学院看護学研究科保健師・助産師コースの皆さん、並びに、岐阜保健大学医療専門学校スポーツ健康学科はりきゅう科・柔道整復師科の皆さん、誠におめでとうございます。皆さんを心から歓迎いたします。

また、本日の慶びにいたる道のりを支え、励まし、導いてこられた御家族の皆様にも、本学の教職員を代表して心からお祝いを申し上げます。

本来であれば、平素より本学の教育に格段のご配慮を賜っております医療機関の多数のご来賓の皆様とともに入学式を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の対策により規模を縮小し実施しています。日常生活が一変し、本学も様々な感染予防の対応・対策を行い講義や実習の環境を整えております。世界中がこのような状況のなか、医療専門職を目指す将来性豊かな新入生の皆さんや、より高度な看護実践者や教育研究者、保健師、助産師を目指す志をお持ちの大学院入学生をお迎えし、今日の日よき日に、入学式を挙げていきますことは、本学にとってこの上ない喜びであります。

二〇一九年に岐阜保健大学看護学部が開学し、二〇二一年にリハビリテーション学部（理学療法学科・作業療法学科）、及び岐阜保健大学大学院看護学専攻修士課程（看護学研究コース・保健師コース・助産師コース）が開設し、岐阜保健大学医療専門学校スポーツ健康学科（はりきゅう科、柔道整復科）を含め、七職種の医療専門職を養成する医療総合大学へと発展しています。

本学の建学の精神は、「命と向き合う心、知識、技をもった地域医療に貢献する医療人の養成」です。新入生の皆さんは、今、期待で満ちあふれていることと思います。いかにして自らの医療人としての人間力を高め、医療に関する高い能力を備えた医療専門職を目指し自分自身を向上していくかということが重要となります。自ら主体的に学ぶ態度を育み、医療に関する学問を究め、命と向き合う心を鍛えていただきたいと思います。地域医療の未来を切り開いていくための、さらに、この令和時代を担う医療人の育成、教育・研究に邁進していくことが本学の使命であります。実践的な学びを通じ、次世代の担い手へ、命に携わる保健医療のやりがいと尊さを教職員が一丸となり皆さんに伝えていきます。

皆さんは、医療の未来の担い手として社会からの大きな期待が託された存在であることを心にとめていただきたい。これは、コロナ渦のなか、医療職の方々の日々の活躍の姿から、皆さんはそれぞれの職種での未来の自分の社会的な役割を自覚していることと思います。そうした自覚のもとで、優れた医療人を目指して、医療を学ぶ学生として責任ある行動を確立していただきたいと思います。

我が国の医療技術の進歩はめざましく、特に臓器移植医療、生殖医療、再生医療、遺伝子を用いた先進的治療の進歩は著しいものがあります。その一方で、急激な高齢化、少子化による地域医療、救急医療の体制の強化が求められています。さらに癌や心疾患をはじめとした生活習慣病の予防、今後もしきりうる新たな感染症への対策や災害時の医療体制など様々な課題があります。技術の進歩や社会の変化に応じて、医療人として社会で活躍するためには常に学び続けることが重要です。医療専門職を目指す皆さんが、これらの課題にたいし今後どのような形で貢献すべきかを在学中にぜひ思案していただきたいと思います。

まずは、夢を叶える第一歩を踏み出そうとしている自分に自信を持ってください。そして未来への覚悟を新たにし夢を実現させてください。それぞれの医療専門職として社会へと旅立って行かれることを期待しています。しかし、時に壁にぶつかり、或いは挫折そうになることもあろうかと思えます。今日の自分への自信と未来への覚悟という初心に立ち還ることで、必ず乗り越えられるものと信じております。同時に、このキャンパスでは、生涯を通じる仲間たちとの出会いの場でもあります。学生生活は学びだけではありません、さまざまなことに挑戦してこれからの学生生活を楽しみ、人としての幅を広げてください。

我々教職員一同は、皆さんが充実した有意義な学生生活を送られるよう、全力で支援してまいります。ご家族の祝福と期待を胸に刻み、感謝の念を持って、学生生活に、十分に励んでいただきたいと思います。本学で学んだことが生涯の宝となり、皆さんが、それぞれ看護師、理学療法士、作業療法士、看護学修士、保健師、助産師、はり・きゅう師、柔道整復師となり有終の美が飾れることを祈念し、入学式の式辞とさせていただきます。

令和四年四月一日

岐阜保健大学学長 河田美紀